

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成17年5月19日(2005.5.19)

【公表番号】特表2004-517630(P2004-517630A)

【公表日】平成16年6月17日(2004.6.17)

【年通号数】公開・登録公報2004-023

【出願番号】特願2002-558463(P2002-558463)

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 K 31/7088

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 5/00

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00

C 1 2 N 5/10

// C 0 7 H 21/00

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 31/7088

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 5/00

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00 1 0 5

A 6 1 P 43/00 1 1 1

C 1 2 N 5/00 B

C 0 7 H 21/00

【手続補正書】

【提出日】平成15年7月11日(2003.7.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ヒトSRC-2をコードする核酸分子の5'-非翻訳領域、開始コドン、コード領域、停止コドンまたは3'-非翻訳領域を標的とする長さ8~30の核塩基のアンチセンス化合物であって、ヒトSRC-2に特異的にハイブリダイズし、そしてその発現を阻害する、前記アンチセンス化合物。

【請求項2】

アンチセンスオリゴヌクレオチドである、請求項1に記載のアンチセンス化合物。

【請求項3】

アンチセンスオリゴヌクレオチドがSEQ ID NO: 10、15、16、17、23、25、27、29、30、31、32、38、39、40、41、42、47、48、12、13、18、20、22、36、37、43、44、45または46を含む配列を有する、請求項2に記載のアンチセンス化合物。

【請求項4】

アンチセンスオリゴヌクレオチドがSEQ ID NO: 10、15、16、17、23、25、30、31、39、40、41または47を含む配列を有する、請求項2に記載のアンチセンス化合物。

【請求項5】

アンチセンスオリゴヌクレオチドが少なくとも一つの修飾ヌクレオシド間結合を含む、請求項2に記載のアンチセンス化合物。

【請求項6】

修飾ヌクレオシド間結合がホスホロチオエート結合である、請求項5に記載のアンチセンス化合物。

【請求項7】

アンチセンスオリゴヌクレオチドが、少なくとも一つの修飾糖部分を含む、請求項2に記載のアンチセンス化合物。

【請求項8】

修飾糖部分が2'-O-メトキシエチル糖部分である、請求項7に記載のアンチセンス化合物。

【請求項9】

アンチセンスオリゴヌクレオチドが少なくとも一つの修飾核塩基を含む、請求項2に記載のアンチセンス化合物。

【請求項10】

修飾核塩基が5-メチルシトシンである、請求項9に記載のアンチセンス化合物。

【請求項11】

アンチセンスオリゴヌクレオチドがキメラオリゴヌクレオチドである、請求項2に記載のアンチセンス化合物。

【請求項12】

請求項1に記載のアンチセンス化合物および医薬的に許容可能な担体または希釈剤を含む、組成物。

【請求項13】

コロイド分散システムをさらに含む、請求項12に記載の組成物。

【請求項14】

アンチセンス化合物がアンチセンスオリゴヌクレオチドである、請求項12に記載の組成物。

【請求項15】

ヒト細胞または組織においてSRC-2の発現を阻害する方法であって、前記細胞または組織と請求項1に記載のアンチセンス化合物とを接触させ、それによりSRC-2の発現を阻害することを含む、前記方法。

【請求項16】

SRC-2の発現を阻害することにより、SRC-2と関連する疾患または症状を有するヒトを治療するための、治療的または予防的有効量の請求項1に記載のアンチセンス化合物を含む、医薬組成物。

【請求項17】

疾患または症状がホルモン障害である、請求項16に記載の医薬組成物。

【請求項18】

疾患または症状が炎症性障害である、請求項16に記載の医薬組成物。

【請求項19】

疾患または症状が過剰増殖性障害である、請求項16に記載の医薬組成物。

【請求項20】

過剰増殖性障害が癌である、請求項19に記載の医薬組成物。